
第5章

**ARENAで
メールを
読む**

05-01

メールブラウザ

●メールブラウザ

前にも書いたようにメーラーは“メールを送受するためのソフト”ではあるんだけど、ユーザーの目からは、その側面はあまり見えない。ユーザーの視線から見れば、メーラーは大ざっぱに言って、「メールを書く」ソフトであり、「メールを読む」ソフトだ。メーラーを使っている時間の中で、もっとも長いのは、やはり“メールを読んでいる時間”ではないだろうか。そこで、どのメーラーでも、“メールを読む”という点に関する機能を取りそろえている。

その中であって、ARENAはこの“メールを読む”という点でも、他のメーラーにはない優れた機能と工夫を多数持った、実に“読みやすい”メーラーに仕上がっている。

ARENAでは、“メールを読む部分”のことを「メールブラウザ」と呼んでいる。この言い方に従うと、ARENAの画面は3つに分けることができる。「メールブラウザ」と「メールコンポザー（メールを作成する画面）」と「アドレスリスト」だ。つまり「メールブラウザ」は、ARENAの全画面から、メールを作成する際のウィンドウとアドレスリストを除いた部分になる。要するに、“ほとんどすべて”だ。このことから、“メールを読む”という側面が、大きな部分を占めるということがわかる。

●メールはどこに

4章で述べたように、初期値では着信したメールは「Inbox」という名のメールボックスに、発信したメールは「SentMail」というメールボックスに格納され、保存される。保存されたメールは、削除しない限りいつでも読むことができる。メールを保存するための“入れ物”には「メールボックス」と「フォルダ」の2種類がある。メールボックスとフォルダの違いについては148ページを参照していただきたい。ここでは「た

くさんのメールを保存するためにはメールボックス、「メールボックスやフォルダを入れておくためにはフォルダ。ただし少数のメールを入れるのは、構わない」という指摘をしておくにとどめよう。

メールボックスやフォルダは、われわれユーザが自由に作ることができる。Finderで、ファイルをドラッグしてフォルダ間で移動できるように、ARENAでもメールをドラッグして、他のメールボックス（フォルダ）へと移動することができる。

メールを移動するための手段は、もうひとつあって、それが「振り分け」だ。これは164ページで詳述することにして。

●メールボックスの操作

メールボックスのウィンドウは、下図のような形状をしている。上半分にそのメールボックスに格納されているメールがリストされ、下半分に、上のリストで選

05-02

メールボックスの操作



図 05-01

上にメールのリスト、下に選択されたメールの内容が表示されるのが、メールボックスの表示の基本だ

択されたメールの内容が表示される。これが基本の形態だ。

リスト部でメールをクリックして選択すると、そのメールの内容が、ウインドウ下半分に表示される。

リスト部で任意のメールをダブルクリックすると、メールの内容が別ウインドウで開いて表示される。

図 05-02

リストの行をダブルクリックするとメール本文が独立したウインドウで表示される



リスト+内容の標準形で表示させるのに比べて、別ウインドウで表示させることは、ウインドウのサイズを大きく取れるというメリットがある。

リストとメール部の真ん中の部分を上下にドラッグすることで、ウインドウ内でのリスト部の相対的なサイズを変更することができる。下げることで、リストに多くの行が表示できるかわりに、メール本文の表示部分が小さくなる。

また、この時、もっとも下までドラッグすると、ウインドウはリストのみの状態になり、メール本文を見るためには、メールをダブルクリックして別ウインドウを開かないとなくなる。人によっては、この状態の方がお好みにあうんじゃないだろうか。



図 05-03
“仕切り”の部分を
上下方向にドラッグするこ
とで、



図 05-04

リスト部と本文の欄の間の仕切りを上下にドラッグすることで、それぞれの領域の大きさを変えることができる。もっとも下までドラッグすればリストだけの表示になる



この操作はウインドウ左下隅のアイコンをクリックすることでも実現できる。クリックするたびに、“リスト+メール本文”式と“リストのみ”式を切り替えることが可能だ。

図 05-05

ウインドウ左下のアイコンをクリックすることで表示を切り替えられる



図05-04のようになってしまった場合、あ！メールが消えちゃった！とあわててしまう「事件」が頻発しているそうだ（本書版元のポット出版での出来事）。そうした場合は、慌てず騒がず図05-05の記述にそってメール本文ウィンドウを復活していただきたい。

●リストの選択

メールの内容を見るには、リスト部でメールを選択する必要がある。選択の方法は、もちろんマウスで直接クリックするのが基本だが、他の方法もある。

矢印キーで、“次”の行を選択することができる。あるメールを選択している状態で、下矢印キーを押すと、リストの1行下を、上矢印で1行下のメールを選択できる。

また、メールウィンドウの矢印アイコンでも同様の動きをする。

Finderのリスト表示と同じく、pagedownキーでリストを1ページ分下げ、pageupキーで上げることができる。

homeキーでそのメールボックスの先頭メールを、endキーでリストの最後のメールを表示する。しかし



図05-06

下矢印キーでひとつ下のメールを選択。本文も変わる





図 05-07
このアイコンをクリックしても矢印キーと同じ振舞いをする

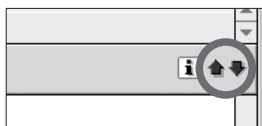


図 05-08
pagedown キーでリストは表示されている行数分下になるが、選択された行が変わることはないの、本文欄は元と同じになっていることに注意



これらの方法での移動は、単にリストの表示を変えているだけだ。つまり選択されているメールは変わっていないことに注意が必要だ。

●スペースバーの振るまい

“メールを読む”シチュエーションでもっとも普通なのは、おそらく、到着した複数の新着メール（未読メール）を順番に読む、というケースだろう。

そうした場合、スペースバーをうまく使うと、手間なく読むことができる。

メールブラウザで特定のメールを選択すると、ウィンドウ下半分にそのメールの内容の先頭部分が表示される。そこでスペースバーを押すと、ページ単位にスクロールされ、メールの文面の続きの部分が表示される。どんなに長いメールでも、こうしてスペースバーを何度も押していくうちに、どんどんスクロールされ、メールの最後までが表示されるだろう。

これ以上スクロールできないところまで来て、なおもスペースバーを押すと、“次”のメールに移る。

“次”というのは状況により、少々変わる。メールブラウザが正順（三角アイコン上向き）でソートされている場合は、最初に選んだメールからリストの下方方向にどんどん進んでいく。逆順（三角アイコン下向き）の場合はリストを遡っていく方向で進む。ただし、どちらの場合にしても、進む方向に未読メールがあれば、未読メールにジャンプする。未読メールが優先されるわけだ。未読メールがなくなったら（全部読んだら）、最後の未読メールの“次”のメールに移る。

つまりこの方法は、同時に到着した数通のメールを順番に読む際に、便利な機能である。未読メールの“先頭”のものをクリックし、あとはスペースバーを何度も押し続けるだけで、未読のメールをすみずみまで読むことができる。知り合いの編集者は毎日大量のメールマガジンを含むメールを読んでいるが、彼はこの機能

がないメーラーは使うことができない、と主張している。彼のメール読みの時間は、同時に食事（主にジャンクフード）時間であり、メール閲覧に両手が必要なメーラーは使用するわけにはいかないのだ。

●ジャンプ機能を使う

メールボックスに分類してメールを保管している場合、今見ているメールボックスとは違うメールボックスに入っているメールを見てみたい時がある。たとえば、図 05-09 のような状態の時に「Friends」というメールボックスの中のメールが見たいわけだ。

普通の手順では、いちばん手前にある「Inbox」のウィンドウをずらすか閉じるかして、「TOP」を表示させ、そこから「Friends」アイコンをダブルクリックす

図 05-09
この時、「Friends」メールボックスの中身が見たくなったとする



普通なら、ウィンドウをずらして「Friends」のアイコンを見る状態にし、それをダブルクリックするのが……



るのが普通だろう（「メールボックス」メニューから階層を
じかに指定するという方法もあるが）。

しかし、これでは面倒だ、という向きのために「ジャンプ機能」はある。「メールボックス」メニュー「ジャンプ」を選ぶか、ショートカット command + J で、図のような小さなダイアログが出る。



図 05-10
小さなダイアログが出る

このダイアログの中に、ジャンプしたい先のメールボックス（フォルダ名）をタイプし、「OK」ボタンをクリックすることで、そのメールボックスが開くという流れになる。ここでの入力は、オートコンプリートが効くので、最初の数文字を入力するだけで済む。

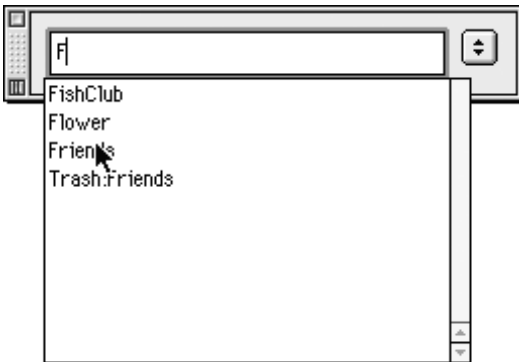


図 05-11
最初の数文字を入れると
.....

なるほど、これは便利だ、と使い始めてみたのであるが、なぜなんだろう、この機能を使うことは意外に少ない。ウインドウを閉じて TOP に戻ってアイコン操作をすることの方が圧倒的に多い。たんに個人的なクセなのかもしれないが。

同様の機能はツールバーの「切替」ボタンをプレスすることによって実現できる。こっちの方がスマートかな？

05-03

メールの表示を 変更する

●メールの行間

メールって、読みにくい。そう思いませんか？ パソコンのモニタ上で長い文章を読むのは苦痛だが、メールはそれ以上に読みにくい。それはなぜかというところ、最大の理由は“行間が詰まりすぎているから”だ。だから「メールの常識」として、「パラグラフ単位に空行を挿入して、読みやすさを確保しよう」ということが言われているくらいだ。

じゃあ、なぜ行間が詰まりすぎているか、というと、コンピュータそのものがもともと欧米の文化の中で出てきたものだからではないかと思う。欧文は、pとかgのように下に突きだした文字や、hやkのように上に突きだした文字、oとかnのようにまんなかあたりで縮こまっている文字などがいろいろ混ざり合っただけで文が構成されている。だから行間を狭くして、gの下の線と次行のhの一番上がくっついていたとしても、行の他の部分では文字と文字の間に間隔ができるため、視覚的に個々の行のライン（なんか矛盾した書き方だな）が独立して見える。しかし、和文の文字はhの一番上からgの一番下までの四角の領域をめいっぱい使って構成されている。だから欧文と同じ行間で表示させると、字と字がくっついてしまい、視覚的に行が独立して見えない。

コンピュータは欧米生まれだから、デフォルトの仕様としては欧文がキレイに表示される行間になっている。このままの設定で和文を表示させるから、非常に読みにくいのだ。

日本語ワープロやエディタでは、初期設定からして、欧文のそれと比べて多めの行間を確保しているし、行間そのものも自由に設定できるようになっている。だか

ら比較的読みやすい。しかしメールソフトの場合は、なぜかその対策がとられていないものが多く、そのため日本語ワープロ（エディタ）に比べて、非常に読みにくい画面表示になっているのだ。

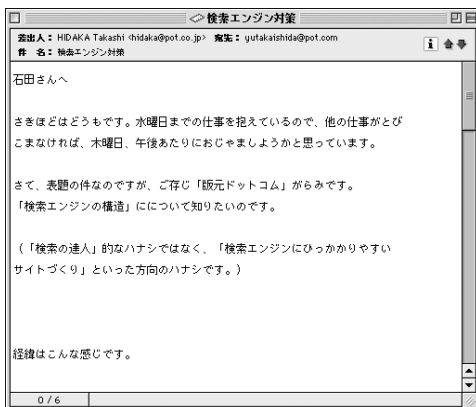
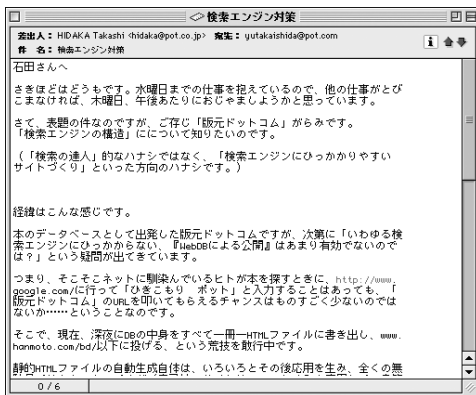
ARENA の誇るべき特徴のひとつが、画面表示の行間をコントロールできる点にある。「一般設定」－「表示／印刷」の「メール」パネルを見ると、初期値では「行間」が「0ピクセル」になっている。これをたとえば「10ピクセル」に変更すると、ゲンと読みやすさが変わるはずだ。もちろん人によって好みがあるため、この数字は10でなければならないというものではない。本文の文字のサイズや書体によっても変わってくる。いろいろ試してみて自分にとって最も読みやすい行間を選ぶとよい。



図 05-12
環境設定からフォントや行間を変更することができる

図 05-13

行間を初期値の 0 ピクセルから 10 ピクセルに変えると、このように読みやすさは向上する



行間を広げると、メールの文章は読みやすくなるが、副作用としてあまりうれしくないことも発生する。それはアスキーアートが乱れてしまうのだ。行間を変えたりフォントを変更したりすると、アスキーアートが発信者の意図とは違うものになる可能性がある。

アスキーアートはフォント（等幅フォントであること）と行間を前提に作られているものだから、行間やフォン

トを変更すると、それが乱れてしまうのは避けることはできない。つまり見やすさとアスキーアートはトレードオフ（こっちを立てればあっちが立たず状態）なのだが、たまにしかないアスキーアートより、日常のメールの読みやすさを優先したいと思うのだが、いかがなものだろうか。

●ヘッダをどう見せる

AさんからBさんへメールを送る。この場合、“送られる”のはメールの本文だけじゃない。言うまでもなく、宛先のメールアドレスも同時に送出されないと相手に届かない。メールにはこうした宛先を示す情報の他、いわば“管理用”のさまざまなデータがくつついた形で送られる。

メールと一緒にくつついてくる“管理用”データを「ヘッダ」という。メールにはかならずヘッダが追加されて送りだされ、ヘッダが付いた形で受け取られる。

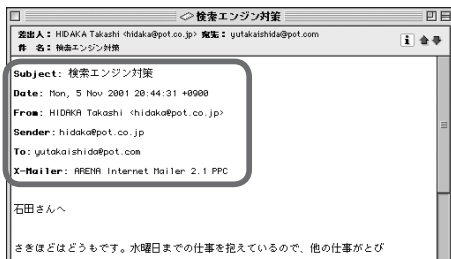
宛先を示す情報もヘッダのひとつだ。この他にもさまざまなヘッダが追加される。たとえばメール本文が何語で記述されているかもヘッダに記入されるし、送信元のメーラーの種類も示される。ヘッダにどのような情報を盛り込むかは、送信元のメーラーによって異なるし、特定のヘッダ含むメールを受け取ったときに、どう振る舞うかは、受信先のメーラーの仕様による。

ヘッダはメール表示画面に本文と同じように表示させることもできるし、またヘッダの部分を表示させないようにも設定できる。初期値ではヘッダは表示されないようになっている。ヘッダの表示は「編集」メニュー「一般設定」－「表示／印刷」の「メール」パネルで、またはメールウインドウの「i」アイコンをクリックすることで設定する。

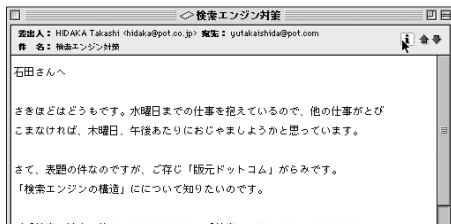
「表示」パネルからは、「メールヘッダ」のポップアップメニューで「表示しない」「標準表示」「すべて表示」の中から選択する。

05 - A R E N A でメールを読む

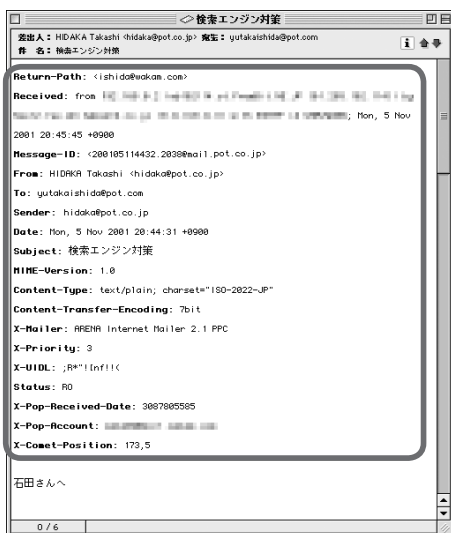
図 05-14
ヘッダ「標準表示」



ヘッダ「表示しない」



ヘッダ「すべて表示」



同様に「i」アイコンをクリックすることにより、この3つの設定が順次変わる。

```

Date: Mon, 5 Nov 2001 20:44:31 +0900
Subject: 検索エンジン対策
MIME-Version: 1.0
Content-Type: text/plain; charset="ISO-2022-JP"
Content-Transfer-Encoding: 7bit
X-Mailer: ARENA Internet Mailer 2.1 PPC
X-Priority: 3
X-UIDL: ;R*"!Inf!!<
Status: RD

```

05-15

たとえばヘッダのこの部分から、相手のメーラー（ひいては相手のOS）がわかる。このメールはARENAから発信されているので、この相手にはPICT画像を送っても、ATMLでの音楽データを送っても大丈夫だということがわかる。

ヘッダは着信したメールに関していろいろな情報を教えてくれる。相手のコンピュータ（OS）やメーラーの種類もわかる。それがわかれば、その相手にメールを送る際に、たとえば画像ファイルの形式を何にすればいいか、などもわかる（相手がMacならPICT画像を送っても大丈夫だが、他のOSなら避けたほうがよい、など）。

しかし、いっぽう、ヘッダはかなりの分量がある。ヘッダを全部表示しておく、メールの本文を読むまでスクロールしなければならない。つまり肝腎のメール本文をチャッチャと手早く読むには、ヘッダが表示されているのは不利だというわけだ。

そこでヘッダを表示するメリット、デメリットを考慮合わせてこの部分を設定する。状況と必要に応じて「i」ボタンで表示／非表示を切り替えるのが現実的だろう。

●メールの検索

メールが溜まってくると、過去に受け取ったメールの中から語句の検索を行いたい場合が出てくる。「前にこの話、誰かからメールで教えてもらったんだけどなあ」とか「彼の携帯の番号はたしか署名に入っていたよな」

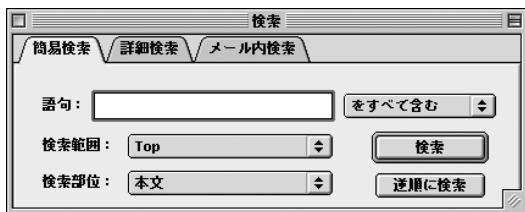
05-04

メールを検索する

図 05-16
ショートカットか、このメニューで検索ウィンドウを出す



図 05-17
このような検索ウィンドウが出る



とかといったニーズ。

どのメーラーにも検索機能はあるが、ARENA の検索機能はその中であって、なかなかのすぐれものだ。まず検索を始めるためには、command + F ないし「ツール」メニュー「メッセージ検索」を選ぶ。

この検索ウィンドウを使ってメールの検索を行うわけだが、ご覧の通り、このウィンドウには「簡易検索」「詳細検索」「メール内検索」の3つのパネルがある。

●簡易検索

まず「簡易検索」から見ていこう。直感的にわかるように、検索したい語は、「語句」欄に記入する。スペースで区切って複数の語を入れることで、複数の語を検索対象にすることができる。複数の語を入れた場合、「語句」欄の右横にあるポップアップメニューで「をすべ

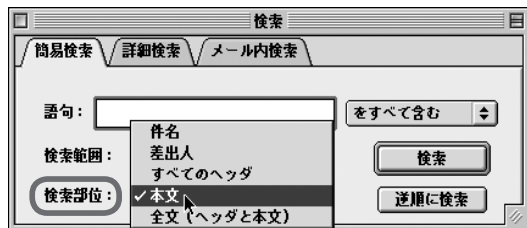
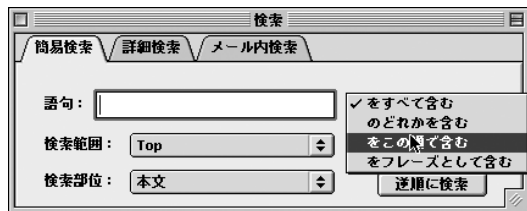


図 05-18
ここで条件を指定する



検索範囲や検索部位を細かく限定できる



て含む」「のどれかを含む」「をこの順で含む」「をフレーズとして含む」の条件を指定する。

検索対象をメールボックス単位で限定できる。「検索

範囲」のポップアップメニューからメールボックスを指定することで、そのメールボックス（その下に含まれるメールボックスなども含む）を検索対象として限定することができる。

「検索部位」のポップアップメニューでは、検索語がメールのどこに入っているかを指定できる。

●検索結果がまとめて表示される

語句を入れ、検索範囲などの条件を定めて「検索」ボタンをクリックすると、検索が開始される。

ARENA の検索でヨイところのひとつに、検索結果がひとつの（メールボックスのような）ウインドウにまとめて表示されることだ。例えば図 05-19 の検索結果で言えば、検索条件に合致した 30 件の検索結果がリストされている。

メールを読むときのように、ひとつずつ見ていってもよい。本文の中で検索語句にヒットした部分は色（初期値では赤）がついて表示される。

検索結果がひとまとまりになるので、169 ページで述

図 05-19

検索結果はこのようにひとつのウインドウにまとめて表示される。左下にある **30** はこの条件でヒットした件数だ

件名	発出人	日付	容量
R 好奇心の感想	Masaki Ono	01.5.9	03:56 AM 2.7K
R ④ はじめまして	Yumi Susaka	01.6.22	12:00 AM 2.1K
S ④ クマムシについて	->Takashi Node	01.6.22	09:41 AM 1.3K
S ④ Re: はじめまして	->Yumi Susaka	01.6.22	04:45 PM 0.7K
S ④ Re: クマムシについて	Takashi Node	01.6.22	09:45 PM 4.8K
S ④ クマムシ情報	->は 健児	01.6.24	07:56 AM 3.2K
S ④ Re: だけ	->Yuki Hosaka	01.6.24	02:42 PM 0.6K
S ④ Re: 好奇心にかかれて	->Masaki Ono	01.7.5	03:31 PM 1.1K
S ④ 感謝	->neda	01.7.12	05:19 PM 0.8K

発出人: Masaki Ono <ono@doha.co.jp> 宛先: guta@shida.wakam.com
件名: 好奇心の感想
送信時刻: Tue/サイト/

で、エディタでテキストを書いて、食わせてやると、ページが自動的に生成されるツールを作りました。」ということ。
時間のあるときにも教えてもらいたいし、こういうノウハウ欲しい人はたくさんいると思います。

後者の代表はなんといっても **クマムシ**。「クマムシの僕れ」という見出しに惹かれました。顕微鏡を買うにいたるところで、「オモチャになると別で、どうしても「いちばんいいの」を欲しがるとある傾向がある。いや、あった、というべきか。 これを今年からやめよう、となぜか思った。」「のなぜが知りたいともどかさきさありますが。

30 件

べる方法を使って、まとめてテキストファイルに書き出すこともできるし、検索にヒットしたメールを別のメールボックスにまとめて移動することもできる。

なおも感動することに、この30件から、絞り込みをすることができる。検索が完了した後の「検索範囲」のポップアップメニューには、図のように検索範囲を“いま検索した結果”に絞り込むためのメニューが追加されているのだ。けっこうフクザツなことを、このようにすっきりしたインターフェイスで実現するところが、ARENAのひとつの特徴と言えるだろう。



図 05-20
検索結果を対象に絞り込むことができる

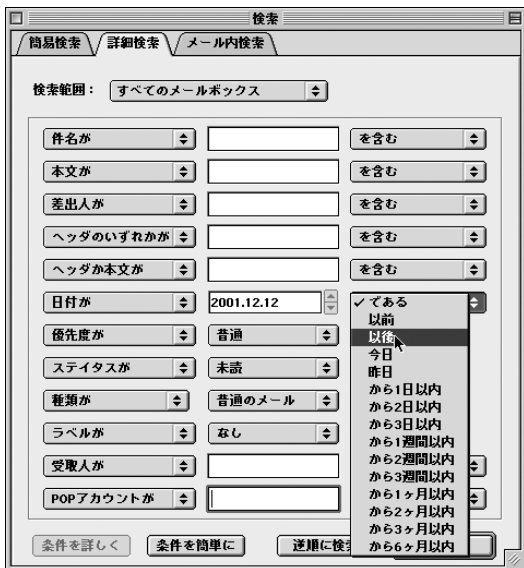
●詳細検索

「簡易検索」といってもナカナカのものなのであるが、「詳細検索」になると、文字通りもっと高度な検索が可能になる。「条件を詳しく」ボタンを押すことで12通りまでの条件を複合的に扱うことができる。

なお、検索結果のウィンドウに表示されるのは、2.0

図 05-21

詳細検索では、よりさまざまな条件でメールの検索を行うことができる。



以降はエイリアスではなくメール本体なので、ここで削除すると本体も消えてしまうので注意が必要だ。

●コンポーザーでの検索

これはこの章の話題ではなく、メールを書く際のことになるのだが、検索つながりでここにまとめて書いておく。

検索ウィンドウのもうひとつのパネル「メール内検索」は、一件のメールの中だけを対象にした検索だ。メー

図 05-22

メール内検索では、コンポーザーのメール（編集中のメール）に関してのみ「置換」もできる



ブラウザのメール（つまり着信メール）の中での検索もできるが、より利用範囲が大きいのが、コンポーザーの中での使用になるだろう。

そのため編集集中のメールの語句の統一などにも使えるよう、置換機能もついている。

